

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市荒町児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3 指定期間	令和2年4月1日から令和7年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 21,091 人 (前年度比 69.8 %) 令和元年度 30,232人 平成30年度 32,395人 平成29年度 29,739人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 44,357 千円 ( 39,444 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円) ( )は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 ( 0千円) ・ その他収入 0千円 ( 0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や「回文団扇」をはじめとする様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

### 三 評価総括

#### 《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》

仙台市の「児童館のための新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」沿って、予防対策を徹底し、安心・安全を確保しました。その中で保護者・小学校・地域の方々と連携・情報共有を懇意にし、子どもの最善の利益を念頭に置き、新しい生活様式の中で地域力を活かし共に作りあげていく関係を深めながら児童館運営をしてきました。

#### ○健全育成事業

「決して一人じゃない、みんなと繋がっている」のメッセージとして地域の方と協力しSNSを通じて「笑顔の100万羽鶴」に参加し、「青空文庫」やコロナ終息を願う子どもたち・職員からのメッセージの「コロナに負けるな壁面作り」「七夕に願いを込めて」「アマビエ色に塗り」等の沢山の集団制作・活動を行い子どもたちの自己表現や共に生きていく大切さを育みました。

#### ○子育て家庭支援事業

イベントが制限される中、親子で楽しむ工夫として「フォトスペースコーナー」を設けました。また、専門の講師を招いて「バランスボール」「ベビーマッサージ」を開催し親子の居場所として交流を深めました。

#### ○地域交流事業

昨年度の小学校の授業で行った「回文団扇制作」の際に披露した「回文団扇の紙芝居」を制作し小学校で授業を行いました。更に継続して回文団扇制作の授業も行い自分達の住む町の歴史文化伝承を知り郷土愛を育む取り組みを介して地域一丸となつての活動を実施しました。

#### ○放課後健全育成事業

小学校の校庭をお借りして毎日の外遊びを通して、心身の健康増進に取り組みました。高学年のリーダーシップが発揮できる場として自ら企画をしたスポーツ大会や季節の行事を通して異年齢交流の場で児童館だからこそできる活動に取り組みました。それぞれの自己実現やコミュニケーション能力の構築等、児童館が子ども達のより良い居場所となる環境作りに努めました。

#### 《施設設置者（仙台市）による評価》

#### 総合評価

令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。

荒町地区の歴史文化伝承の取り組みとして知られている「回文団扇」は、コロナ禍においても勢いが止まることなく充実した事業となった。紙芝居を製作し小学校での読み聞かせを行い、YouTubeでは児童館職員の読み聞かせ動画を配信し、広く地域の活性化に努めている。小学校での回文団扇の授業の継続もあり、地域ぐるみでの豊かな交流が継続しており評価できる。また、コロナに負けずに頑張ろうと地域の団体が30組ほど募った「リモート大合唱プロジェクト」に児童館として参加し、子ども達と作った回文団扇の替え歌を披露し、「1000万羽鶴プロジェクト」への参加では、医療従事者に向け地域商店街からSNSでの発信するなど、様々な活動への協力を通して強固な地域連携を育むと共に、子ども達の郷土愛を深める機会を豊かに提供している。

子育て家庭支援事業では、連坊小路マイスクール児童館と共催し「わらじっこ」の活動を行った。中間地点であり、広い敷地で密を避け開催できる地域の神社を借用して開催し、乳幼児親子に季節の行事などで豊かな遊びの場を提供した。また、「ベビーマッサージ」や「バランスボール」では講師を招いて、子育て家庭へのリフレッシュ企画を提供した。

放課後児童健全育成事業においても、運営団体の登米事業所との連携「田んぼの楽校」での自然体験や環境団体による「広瀬川とサケ」でのサクラマスの飼育放流を通じて環境問題を取り入れた学びの機会を設けるなど、豊かな経験の場を提供した。また、児童クラブ行事としても季節の遊びや製作遊びを提供し、子どもの自主的な企画へのサポートで「卓球大会」や「リレー大会」を開催するなど遊びを通した子ども達の豊かな育ちを支援している。

S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

#### 特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課